

## 1. 橋のデザインについて

### ■ 資料の構成

#### 資料1

橋のデザイン  
について

1. 橋全体

2. 張り出し部

3. 橋脚

4. 色彩

#### 資料2

橋上空間の  
デザインについて

5. 橋上空間デザインの方針

6. a 舗装、b 高欄、c 親柱、d 地覆、  
e 歩車道境界、f 照明

#### 資料3

橋詰 および  
市民参加について

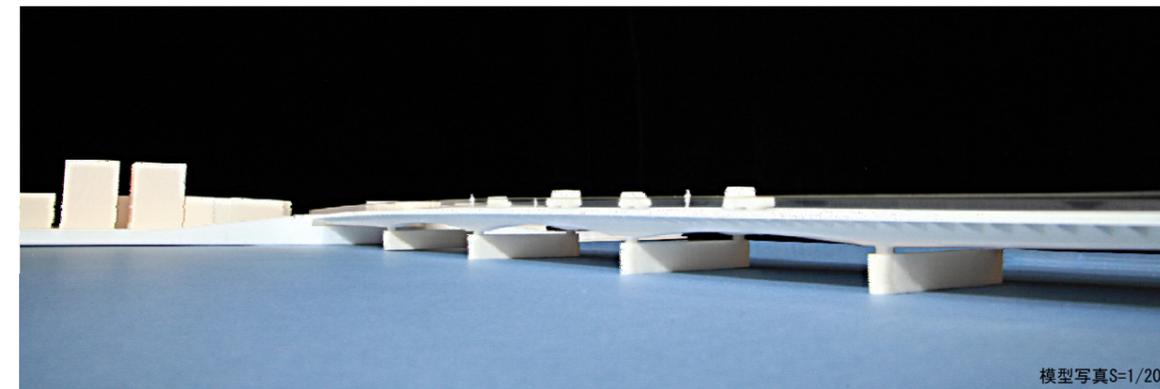
7. 橋詰および周辺空間の考え方

8. 市民参加について

# 1. 橋全体

## □ 橋の基本形状 (前回委員会までの決定方針)

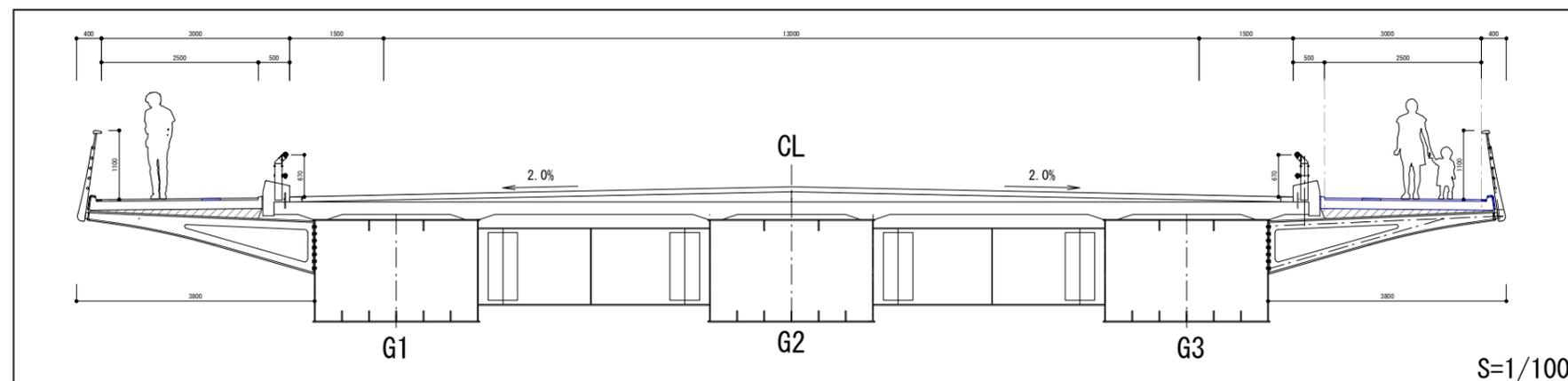
- ・ 5 径間
- ・ 桁下面に曲線等で変化をつける形状
- ・ 支持部材により張り出しを大きくする形状
- ・ 鋼製の箱桁



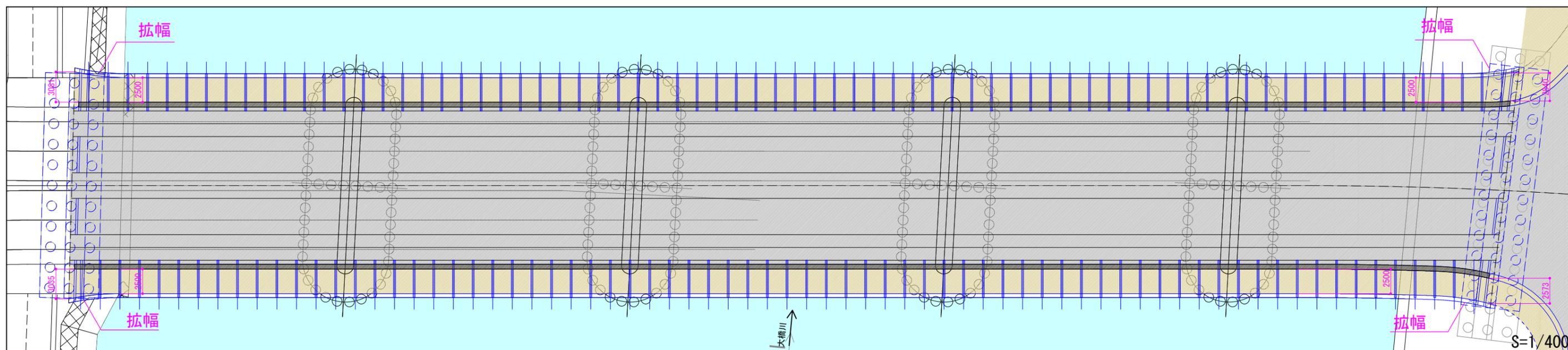
模型写真S=1/200

## ■ 平面形状 (今回提示)

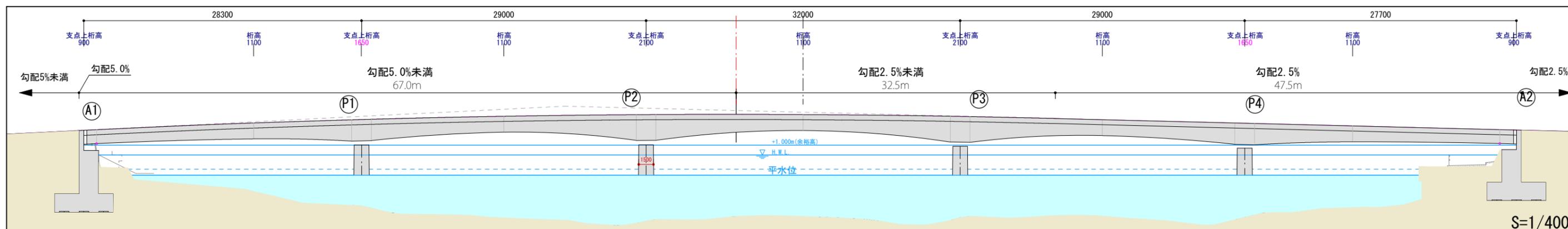
- ・ 南岸は交差点の隅切り形状に伴い、上下流ともに拡幅
- ・ 北岸も同様に上下流ともに拡幅
- 橋～川沿いの動線がよりスムーズにつながる



S=1/100



S=1/400

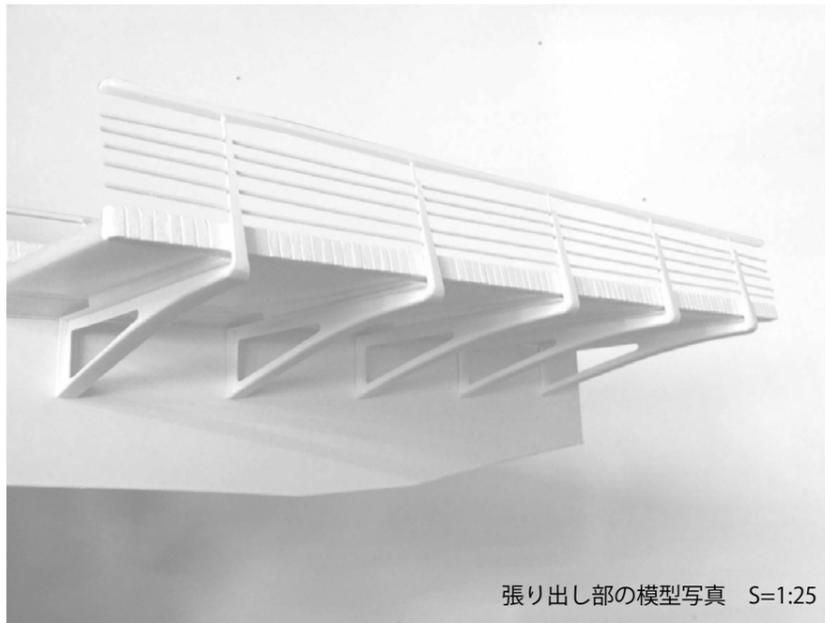


S=1/400

## ■ 2. 張り出し部

### □ 張り出し部の構成 (前回委員会での決定方針やポイント)

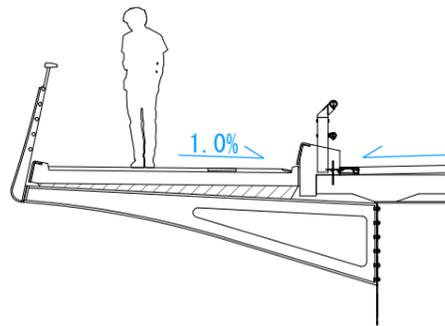
- ・2mピッチの穴あきブラケットのみで支える  
→張り出し部全体が繊細なイメージとなる



### ■ 歩道横断勾配 (今回提示)

#### 前回提示

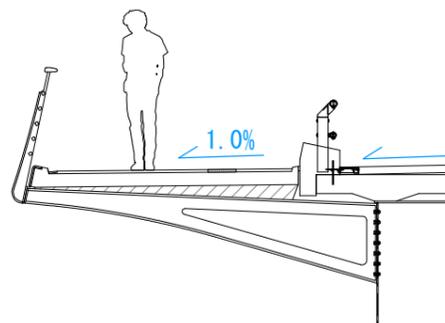
歩車道境界に向かって横断勾配 (1%)



#### 変更

川側に向かって横断勾配 (1%)

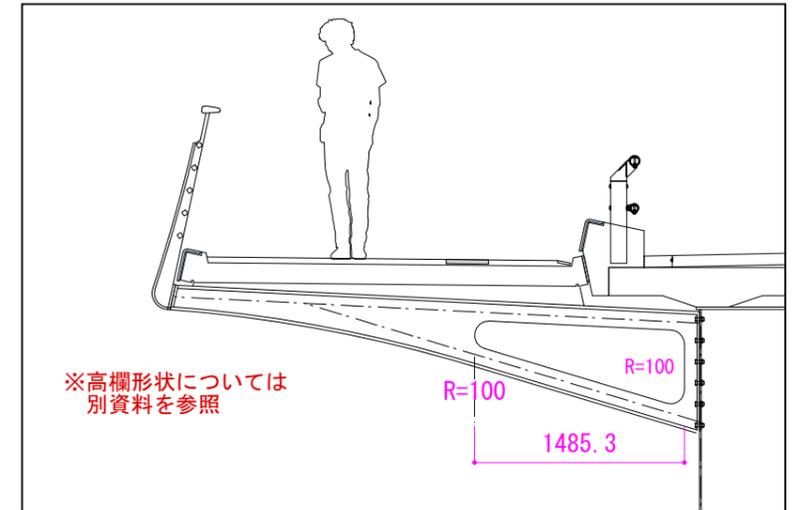
- ・橋詰付近で高さが擦り付けやすくなる
- ・ポツポツとしたフットライトが橋外から視認しやすくなる
- ・橋上から川への見通しがやや良くなる



### ■ ブラケット開口形状 (今回提示)

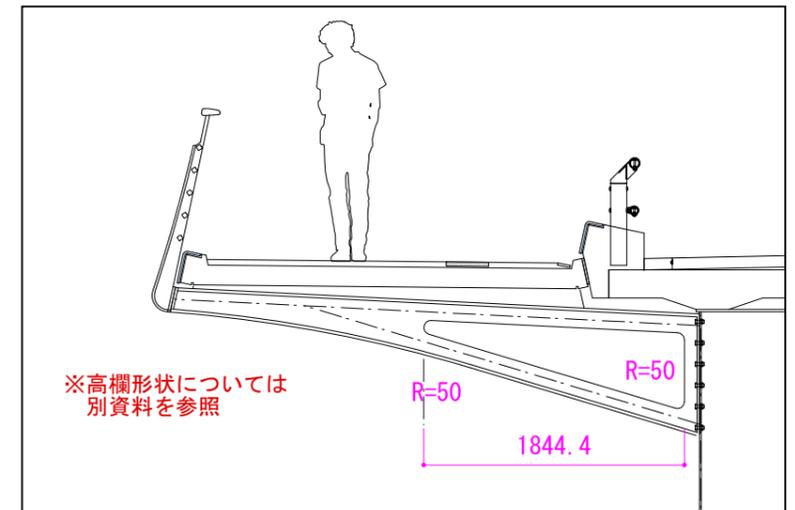
**a** R=100mm

- ・開口寸法が最も小さい
- ・ブラケットの繊細さが感じられにくい



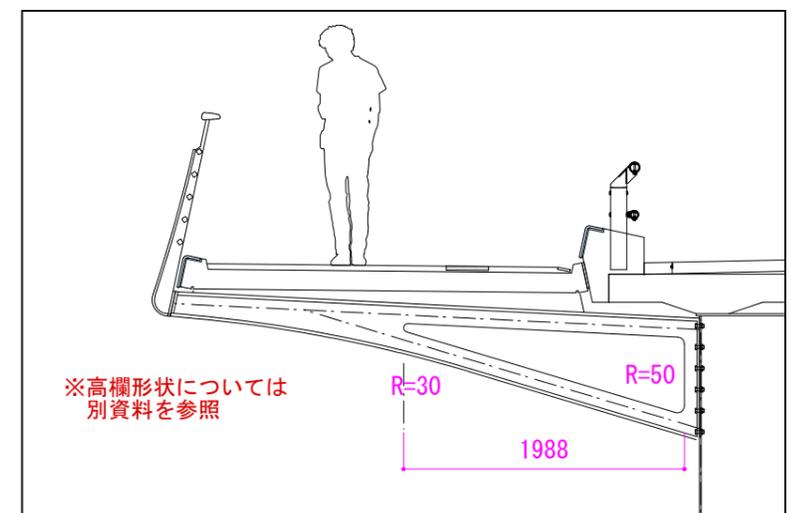
**b** R=50mm  
前回委員会提示案

- ・開口寸法は比較的大きい
- ・ブラケットの繊細さが感じられる



**c** 先端R=30mm、50mm  
先端のみ さらにR小さく

- ・開口寸法は最も大きい
- ・ブラケットの繊細さがより感じられる



3. 橋脚

□ 橋脚の考え方 (前回委員会での決定方針やポイント)

- ・ 橋脚の上下をそれぞれ必要最小限の合理的な寸法とする (頂部1.5m、基部1.7m)
- ・ 上すぼまりとすることで、水面より上に見える橋脚のボリュームを小さくする  
→ 伸びやかな主桁の曲線を引き立てるよう、スリムな橋脚とする
- ・ 桁本体を引き立てるよう、橋脚の表面はシンプルな型枠仕上げとする

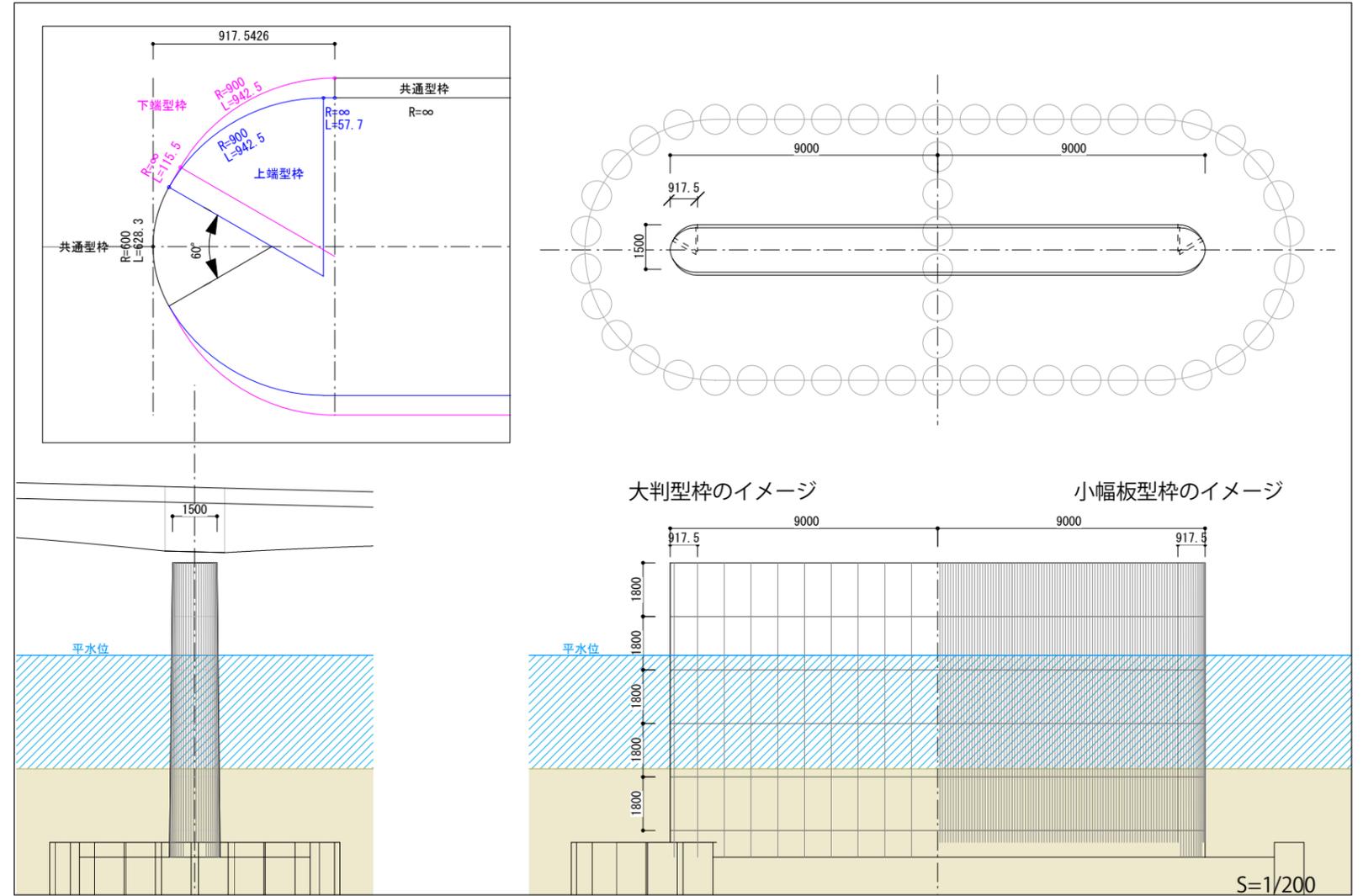
※ 指摘事項

- ・ 型枠など、施工性にも配慮した検討を行う
- ・ 表面仕上げについては、船上からの視点も考慮し、表情や質感が向上する工夫を検討

■ 型枠の考え方

- ・ コンクリートの施工上必要な目地などは、間隔が一定になるよう整えることとする。
- ・ 橋脚先端は、一定の半径曲線と直線を組み合わせた形状とし、型枠および鉄筋の製作に配慮する。

※ 小幅板を用いることで3次元的な形状変化に対応しやすい



■ 橋脚の表面仕上げ

	前回委員会提案	大判の型枠	検討案	小幅板の型枠
イメージ	 断面イメージ			
表情	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 型枠の分割位置やセパレーター穴の位置を等間隔に整える</li> <li>・ 遠目にシンプルな印象であり桁本体を引き立てる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小さい幅で目地を一定間隔に整える</li> <li>・ 遠景の柔らかな印象が桁本体を引き立てる</li> <li>・ 近づくと繊細な表情が感じられる</li> </ul>	
コスト比率 (型枠代のみ)		1.00		1.46

参考:

特殊な処理により表面に模様をつけた事例



- ・ 表面の凹凸により、自由に模様が描ける
- ・ より表情はでるが、桁よりも橋脚の方が主役になってしまう

■ 4. 色彩

□ 前回委員会での決定方針

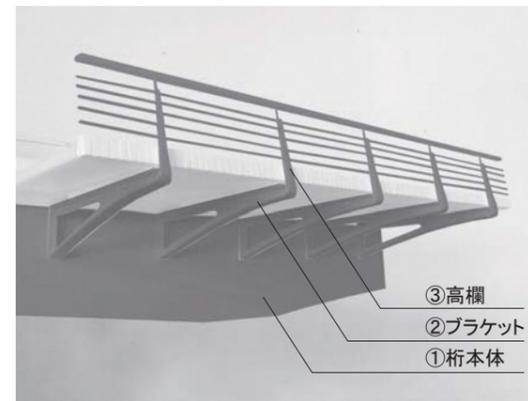
- ・色の塗り分けは、パターン1ないしパターン2が望ましい
- ・候補色は、青系ないし無彩色系とし、現況の新大橋の色を追加する
- ・塗装色は、現場に準備した塗装サンプル(色見本)を確認したうえで最終的に決定する

■ (ア) 塗り分け方の検討

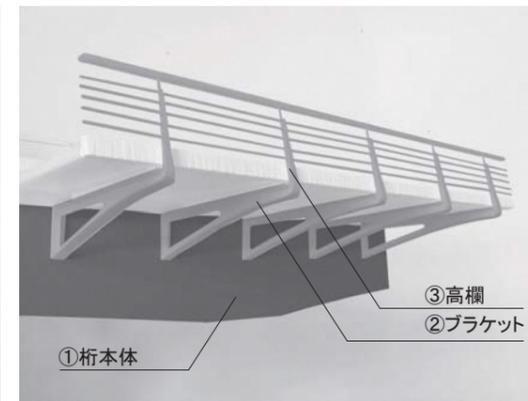
検討方針

- ・色が多く煩雑にならないよう、塗り分けは下の3パターンとする
- ・塗り分ける場合は、相性の良い色の組み合わせとする

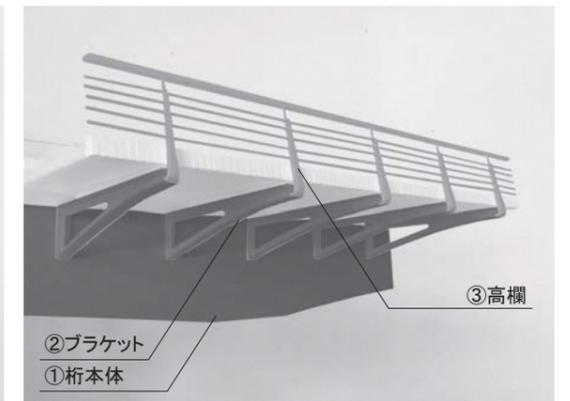
パターン1 (①,②,③ 同色)



パターン2 (① 異色、②,③ 同色)



パターン3 (①,② 同色、③ 異色)



■ (イ) 候補色の検討

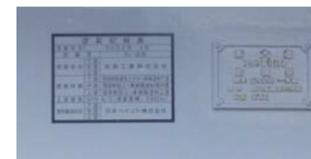
検討方針

- ・松江市景観計画の基準を満たす色を選定  
「けばけばしい色彩はできる限り避け、落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観との調和に配慮すること。」
- ・「日本の伝統色」など、風景になじみやすい候補色を選ぶ

・現況の新大橋や水辺を連想させる **青系**



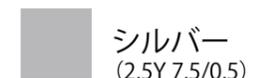
→ 新大橋の色を追加



→ 明るめを追加



・シックで洗練された印象のある **無彩色系**



→ 最終的には現場に準備した色見本により決定





## 塗り分けパターンの比較

パターン 1



縹色



白群

- ・桁から高欄まで一体的な印象
- ・自然の光によって、支柱とブラケットで色の見え方が異なる
- ・紫外線による退色(色あせ)の進行の違いにより経年で高欄支柱とブラケットが異なる色となる

パターン 2



桁:縹色 ブラケット・高欄:灰白



桁:白群 ブラケット・高欄:灰白

- ・ブラケットから高欄まで一体的な印象
- ・ブラケット付け根の鉛直部材が目立つ
- ・紫外線による退色(色あせ)の進行の違いにより経年で高欄支柱とブラケットが異なる色となる

パターン 3



桁・ブラケット:縹色 高欄:灰白



桁・ブラケット:白群 高欄:灰白

- ・高欄支柱とブラケットの接続部の形状を工夫することで塗り分けによる違和感を無くすることができる
- ・紫外線による退色(色あせ)の差をあらかじめ考慮することで時間の変化を受け容れつつ、イメージを保つことができる

# 高欄の色の濃さの違い

高欄の色が淡い場合

パターン 2



パターン 3



高欄の色が濃い場合





## 色の比較 ※塗り分けはすべてパターン3で表示

### 青系(濃いめ)

- ・大橋川の風景になじむ
- ・やや重たい印象を受ける



桁: 縹色 ブラケット・高欄: 灰白



### 青系(明るめ)

- ・大橋川の風景になじみ、他の橋との相性もよい
- ・天候によらず明るい印象を受ける



桁・ブラケット: 白群 高欄: 縹色



## 色の比較 ※塗り分けはすべてパターン3で表示

### 無彩色系(濃いめ)

- ・シックな印象で、大橋川の風景になじむ
- ・やや重たい印象を受ける



桁:素鼠 ブラケット・高欄:灰白



### 無彩色系(明るめ)

- ・モダンな印象であり、風景の中でやや主張する
- ・天候によらず明るい印象を受ける



桁・ブラケット:灰白 高欄:白(N0)

